

The Schilke Five



左から高橋敦、川田修一、内藤知裕、松山萌、田中敏雄の各氏。

5人の精鋭が奏でる シルキー万華鏡

ザ・シルキー・ファイブ・コンサートツアー 2021

在京オーケストラの5人の精鋭がシルキーの長短トランペットを駆使して
華麗なアンサンブルを聞かせるザ・シルキー・ファイブ。
1月に行う2021年コンサートツアー第1弾を前に話を聞いた。

記事協賛：株式会社 グローバル、取材協力：管楽器専門店 ダク

トランペットアンサンブル……The Schilke Five

2018年冬、高橋敦氏をリーダーにトランペット奏者5名で結成。2020年2月からコンサート活動を開始し、第1回ツアーを大阪、広島、東京で開催。多彩なレパートリーを超絶的なテクニックと華麗なサウンドで聞かせ多くの聴衆を魅了した。2021年のツアーは京都、名古屋、仙台、鹿児島、福岡、岡山、東京で開催予定。ピッコロトランペットからフリューゲルホルンまで数多くのシルキートランペットを駆使し、トランペットの魅力を存分に届ける。



高橋 敦 Osamu Takahashi

◎東京都交響楽団首席



川田修一 Shuichi Kawata

◎東京フィルハーモニー交響楽団首席



内藤知裕 Tomohiro Naito

◎東京都交響楽団



松山 萌 Moe Matsuyama

◎東京交響楽団



田中敏雄 Toshio Tanaka

◎読売日本交響楽団

——ここに並んだ楽器は全部シルキー。いったい何本使うのですか？
高橋 20数本かな。僕は5本使いますけど、一人平均3〜4本。
——すべてシルキーで揃えられるという魅力はありますか？
高橋 とてもありますね。シルキーは特殊管もクオリティがすごく高いですから。明確な音の音だけで、どれも響きが豊かでハーモニーがきれいに整います。
内藤 これだけ楽器を使っても、どれにも共通するものがありますからアンサンブルがとてもしやすいですね。
——持ち替えの負担はみなさん同じ？
田中 僕がいちばん少ないかも(笑)。
内藤 楽譜に楽器の指示はないんです。
——あ、そうなんですか。
高橋 僕がアレンジしながらいろんな音域を書くんですが、フリーユーゲルホルンは別として、B♭管で吹くのがC管で吹くのが、ピッコロだろうがD管だろうが選択は各自に任せています。
——D管を使うのはどんなとき？
松山 やはり音色や調性です。それに指とか音域とか自分が楽だと思うところで使いますね。
内藤 ここはオーボエ・パートのアレンジだから短い管の方がいいとか。
高橋 人によっては、持ち替えずに同じ楽

器で色々なことをやる方が調子が崩れないという人もいます。楽器の長さが変わればマウスピースも変わる可能性がありますからね。逆に、楽器を変えた方が楽に吹けるという人もいます。これは本当に人によって違います。
内藤 僕はC管で吹き続けた方がよいような場面でも持ち替える時があります。楽器を変えても共通要素が多いシルキーだから出来ることです。
——内藤さんはG管も使われる。G管ってどんな楽器ですか？
内藤 ピッコロと長い管の間をつなぐような性格を感じます。ピッコロほど華やかではないけれど、華やかさと太さの両

方を持っている。オケでは使いませんが、アンサンブルなどで、軽い音が欲しいけれどピッコロだとちょっと、という時に使ってきました。
ソロリスト・シリーズの登場で一気におケに拡がった
——皆さんオケでもシルキーを使っていらつしやるわけですね。松山さんはいつから？
松山 去年からです。ピッコロは以前から持っていて、E♭/D管も人に借りるなどしてシルキーの音には興味がありました。ただ、以前のシルキーのB♭管、C管にはリバースタイプがなく、私には

合わないと思っていました。そうしたら2年前にスタンダードタイプのモデル(ソロリスト・シリーズ)が出て「これなら使える」と。実際、今はオケでもソロリストを使っています。
——川田さんは？
川田 僕も同じくソロリストが出た2年前にC管を購入し、その後B♭管も購入しました。とにかくオケの中で楽に吹けるので決断は早かった。何と言っても音の当たりやすさが自分の感覚とマッチしたんですね。シルキーの印象が僕の中で変わったのは、ソロリストの前に出たH/Dシリーズからです。ピッコロは大学2年の時から使っていて、D管、E♭管も以前から使

ザ・シルキー・ファイブ コンサートツアー 2021 [第1弾]

京都公演

2021 1/21 (木) 19:00
京都府民ホール「アルティ」
料金：一般¥3000 学生¥1500
ピアノ：安田結衣子

名古屋公演

2021 1/22 (金) 19:00
ザ・コンサートホール(電気文化会館)
料金：一般¥3000 学生¥1500
ピアノ：安田結衣子

仙台公演

2021 1/25 (月) 18:30
宮城野区文化センター・パトナホール
料金：一般¥3000 学生¥1500
ピアノ：野田清隆

曲目：J・バーンス(交響的序曲) バッフェルベル(カノン)
ヴェルディ(歌劇「運命の力」序曲) ビゼー(歌劇「カルメン」より「恋は野の鳥」) ボロティン(歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」) 他

問：(株)グローバル企画営業部
concert@global-inst.co.jp 03-5389-5111

★トランペットアンサンブル
ザ・シルキー・ファイブ コンサートツアー 2021 第1弾
～今、注目のトランペットプレイヤーによる絶頂的なアンサンブル～
～Trumpet Ensemble～
The Schilke Five
Concert Tour 2021 First

公演日	会場	チケット料金
2021年1月21日(木) 19:00開演(18:15集合)	京都府民ホール「アルティ」	全席指定 一般¥3000 学生¥1500
2021年1月22日(金) 19:00開演(18:15集合)	ザ・コンサートホール(電気文化会館)	全席指定 一般¥3000 学生¥1500
2021年1月25日(月) 18:30開演(18:00集合)	宮城野区文化センター・パトナホール	全席指定 一般¥3000 学生¥1500

★チケットの購入・問い合わせ先
チケットの購入・問い合わせ先: www.global-inst.co.jp 03-5389-5111
※チケットの購入・問い合わせ先: www.global-inst.co.jp 03-5389-5111
※チケットの購入・問い合わせ先: www.global-inst.co.jp 03-5389-5111



とした感じがあって、すぐにオケでも使えると思います。以来、変えることなくHDを使い続けています。

——高橋さんと田中さんは、まさにソロイスト・シリーズをプロデュースされたご本人たち。

田中 リバースタイプもすごく良い息の流れをつくれますが、スタンダード（ソロイスト・シリーズ）にしたことで、より柔軟に、自由に息の流れを扱えるようになったイメージが僕にはあります。

——他のオーケストラプレイヤーたちのソロイストに対する反響は？

高橋 発売と同時に反響はすごく早かったですね。とくに各地のオケの方々が続々とソロイストに変えました。あの人もこの人も、名前を挙げればよすぎりがないほどです。

じつは、僕らが使っているミュートも優れものですので、ぜひ紹介して頂ければ。「faxx（ファックス）」という米国製ミュートで、シルキーのベルに合うということもありですけど、ほかの楽器にも合い、とても吹きやすくて音程も良いミュートです。ストレートミュートはもちろん、特にカップ・ブミュートの音色が非常にいいですね。

内藤 どちらもアルミと、より重いコパー（銅）の2種類があって音色が違う。音程が良く、音色をコントロールしやすいので都響では全員が使っています。

——ひよっとしてマウスピースも皆さんシルキー？

松山 私はシルキーのMOST（モスト）の1M、短い管を吹くときは2番。

川田 僕はシルキーのシンフォニー。

内藤 僕もシンフォニー。

——モストも高橋さんと田中さんがプロデュースされたマウスピースですね。

高橋 3年前にシカゴのシルキー本社に行って設計を詰めました。狙いは、どの楽器のどんな人にも合うマウスピース。実際、かなりその目的を実現できたと思っています。

例えば、唇の厚さは人によって違いますし、マウスピースの息が入りやすい・入りにくいというのも楽器によって違ったりします。もちろん重さや形によっても吹奏感や音色が変わる。そうした現実を踏まえ、本当の意味でのスタンダードなマウスピースを作りたいと、今までにないデザインにこだわって開発しました。リムの形状も、日本人はわりと厚めの唇の人が多く、海外のマウスピースをそのまま使うと唇が余ってしまい、窮屈に感じる人が多いのですが、そこにちよつと逃げ場を作るなどいろいろ工夫しています。

吹奏楽の定番曲やオペラアリアなども……

——シルキー・ファイブのアレンジは高橋さんが担当されているわけですね。

高橋 はい、ぜんぶ僕です。トランペット5本のオリジナル曲ももちろんやりませんが、他に「トランペット5」で津堅先生が

シルキー・ファイブが愛用する「faxx」ミュート。写真は「音色が抜群！」と彼らが絶賛するカップミュート。カップはアルミとコパーの2種類がある。



アレンジしたものなども取り上げます。

——高橋さんのアレンジはどうですか？

内藤 正直、きつい（笑）。吹くのはきついけど、良い音がする。良い音がすることが一番ですね。あとは練習すればいい話（笑）。

川田 でも、良い感じで練習しないと吹けないかも。

松山 とにかく、やりがいがありますよね（笑）。

——シルキー・ファイブならではの聴きどころは？

高橋 僕らの特徴としては、トランペット5人とピアノを入れた編成であること、それに吹奏楽の定番曲、例えば今回のツァーで取り上げるジュームズ・バーンズ（交響的序曲）や、フィリップ・スパークなどの吹奏楽曲をアレンジしたり、オペラの小品やアリアを自分たち向けにアレンジして、メンバーの華麗なテクニクや5人の華やかなサウンドを楽しんでいただけるのもシルキー・ファイブの特徴だと思っています。ぜひ多くの皆さんに足を運んでいただきたいと思っています。